

世界遺産条約暫定リスト（日本）
（仮訳）

国 名：日 本

作成者：環境省及び林野庁

日 付：平成 16 年 1 月 15 日

物件名：知 床

位 置：北緯 44°09'00" , 東経 145°11'54"

物件の説明：

オホーツク海と根室海峡に接した北海道北東部の知床半島に位置し、半島中央部には最高峰の羅臼岳（標高 1,661m）をはじめとする標高 1,500m を超える火山群（知床連山）が縦走している。

Udvardy の生物地理区分では、「満州・日本混交林」に属し、海岸から約 1,600m の山頂部までの間には、人手の入っていない多様な植生が連続して存在する。また、知床半島の複雑な地形と半島の東西で異なる気候の差により、種々の生育・生息地があり、知床は動植物の種の多様性が高い。

知床半島は季節海氷域としては世界で最も低緯度に位置しており、海氷が融ける時期が早いため、春期の植物プランクトンの大増殖が他の季節海氷域に先駆けて起こり、これらが大量の動物プランクトンをもたらす。サケ類やスケトウダラなどの多くの魚類は、これらの豊富なプランクトン類を利用して育ち、シマフクロウ、オオワシ、オジロワシなどの希少鳥類や、世界的にも高密度で生息しているヒグマの重要な餌資源として陸上生態系を支えている。

顕著で普遍的な価値の証明

知床は、季節海氷域の特徴を反映した海洋生態系と陸上生態系との相互関係を示す複合生態系の顕著な見本である。陸上生態系では原生的な森林が維持されており、海洋生態系は多様性に富み、豊かである。

海氷は海 - 川 - 森の各生態系を結ぶダイナミックなリンクの源であり、鳥類や海棲哺乳類の特異な越冬地や卓越した景観を提供している。

知床は多くの動植物の生育・生息地となっている。特にシマフクロウ、オオワシ、オジロワシなどの国際的希少種の重要な繁殖地や越冬地となっている。また、知床の四季の変化が大きい原生的な景観は、優れた自然美を有している。

該当するクライテリア：

自然遺産のクライテリア (ii)：

知床には豊かな海と森、それをつなぐ川の相互作用により構成される複合生態系が見られる。そこには海氷がもたらす栄養分によって植物プランクトンが大量に増殖し、それを出発点とするダイナミックな食物連鎖は海 - 川 - 森の各生態系を統合している。推薦地はこのような複合生態系の仕組みと重要性を示す顕著な見本である。

自然遺産のクライテリア (iii)：

知床の四季の変化が大きい原生的な景観は、優れた自然美を有する。特に冬期の海氷景観は変化に富み、秋期には多様な植生が美しい色で知床を覆う。また、知床には高純度の溶融硫黄を大量噴出することで世界的にも有名な硫黄山があり、優れた自然現象も見られる。

自然遺産のクライテリア (iv)：

知床には、北方系と南方系の両系の種が混在するなど、特異な種構成、分布が見られ、北方由来の種と南方由来の種が共存している。その結果、多様な動植物相となっている。さらに知床は、シマフクロウ、オオワシ、オジロワシなどの国際的希少種の重要な繁殖地や越冬地となっている。知床は北部太平洋の極めて優れた生物多様性の保全のために最も重要な自然の生息・生育地を包含している。

真正性または完全性：

知床は、季節海氷域の特徴を反映した海洋生態系と、海と森をつなぐ河川生態系、多様で原生的な森を中心とした陸上生態系の全てを含んでいる。いずれの生態系も複合生態系の仕組みを実証する上で必要な要素であり、長期的保全に十分な規模を有している。

知床は、国内法等に基づき、原生自然環境保全地域、国立公園、森林生態系保護地域等の保護区に指定されており、既に長期的に適切な保護を受けている。また、上記保護区を所管する各機関や地元自治体、関係団体からなる地域連絡会議が設置され、管理計画が作成された。

他の類似物件との比較：

知床と同緯度に位置する世界自然遺産既登録地のうち、森と海を包含する5箇所の自然遺産と比較を行った。それらはロシアの2箇所（シホテーアリン山脈中央部、カムチャツカの火山群）と北米の2箇所（レッドウッド国立公園、クルエーン/ランゲル-セント・イライアス/グレーシャー・ベイ/タッチェンシニー-アルセク）、オセアニアの1箇所（テ・ワヒポウナム-南西ニュージーランド）である。

上記5箇所はすべて、季節海氷の影響を受けた生態系を欠き、知床とは生物相も異なる。推薦地は他の地域より面積は小規模であるが、種の多様性は同等、あるいは優れており、同様の価値を有する既存の自然遺産は存在しない。